

# 9-10月斗争の偉大な成果をバネに11月総決起を

## 日刊 動労千葉

86. 11. 4  
No. 2397

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二・〇七

# 1030出発臭に新たな闘いへ

動労千葉は、十月三〇日、東京清水谷公園において開催された「国鉄法案強行成立阻止、分割・民営化絶対反対、十・三〇労働者総決起集会」に、二五〇名の部隊をもって結集し、国労共闘、民間の闘う労働者とともに一二五〇名が集会をかちとつた後、国会にむけて断固たるデモを貫徹した。

「衆議院を法案が通過したことによって国鉄問題があたかも終わったかのようなことがいわれている。決してそうではない。すべてはこれからだ。旅客・貨物会社はどうなるか。四万一千人はどうなるのか。何も決まっていけない」 布施書記長挨拶

何も決まっていやしない  
すべてはこれからだ

布施書記長挨拶

十八時過ぎ、国労共闘の小野氏、動労千葉の吉岡執行委員の司会によって集会は開催された。

司会者から「デタラメな国鉄法案の強行に対し心の底から弾劾する。十万人首切りをやるという法案成立によって、きはじめて改革労協と国労内の右派を断固蹴散らして、われわれこそが分割・民営化絶対阻止の闘いの先頭に立とう」



▲10・30清水谷、動労千葉を先頭に1250名が総決起。

と本集会の成功を訴えた。

まず、主催者の動労千葉より布施書記長が挨拶にたち、「衆議院を法案が通過したことによって国鉄問題があたかも終わったかのようなことがいわれている。決してそうではない。すべてはこれからだ。われわれの、国鉄労働者の決起にすべてがかかっている。旅客・貨物会社はどうなるか。四万一千人はどうなるのか。何も決まっていけない。それを許すか、否かは国鉄労働者自身の闘いにかかっている。ましてや、権力にヒザますぎ、他の国鉄労働者の首はどうでもいい。自分の首は助けてくれという先に労働者の未来があるというのか。今日のドラケ切った労働運動をわれわれ自身の闘いで叩き直す決意を打ち固めよう。

何よりも今、国鉄労働者に求められているのは自分の実力をもって職場から決起することだ」と断固たる訴えを行った。闘いから逃げだした者に未来を開くことはできない

そして、連帯の挨拶に三里塚反対同盟より青行隊の清宮氏がたち、「三里塚も国鉄も決戦に入った。国鉄法案の通過を見てもまさにその通りで、三里塚にしゃにむに空港をつくらうとし、農民を追い出そうとしてきた、そのことが国鉄に対

しても行われようとしている。三里塚の中から国鉄労働者とともに決戦を闘う。闘う中からこそ未来を切りひらくことができる。二一年の闘いから教えられた。革マルのような闘いから逃亡し、権力により寄り寄るような者に未来は切りひらくこととはできない」と力強く述べられた。

続いて、神奈川支援事務局より「動労千葉を孤立させてはならない。国鉄攻撃は国鉄労働者のみにかげられた攻撃ではなく、中曽根の『戦後政治の総決算』として全ての労働者にかげられている攻撃として受けとめ共に闘う」と挨拶がなされた。

国鉄労働者自らの闘いで勝利の展望はひらける

新藤青年部長の決意表明  
本集会の基調を国労共闘の仲間を代表して吉野元久氏から行われ「国鉄法案の強行採決に示される社・共の度しがたい議会主義が完全に破産したときに、いよいよ国鉄労働者によっての実力的な決起にたつ新たな時代がきた」と猛然たる宣言を行った。

そして、国労門司・新潟・千葉・東京の労働者より闘いの報告がされた後、主催者の動労千葉より中野委員長が登壇し、烈烈たる「動労千葉の決意」を表明した。最後に、動労千葉の新藤雄一青年部長は「衆院通過で決戦は新たな状況に入った。議会主義者どもはもうダメだといっている。そうじゃない。法案が成立しようが当の国鉄労働者自身がこんなことは絶対許さない闘いによって勝利の展望はひらける。国労の仲間と共に必ず決起する」と決意を明らかにした。

集会終了後、青年部を先頭に、日比谷公園まで権力の挑発をはねのけデモを貫徹した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を